

# バリアフリー対策について

## ○基本的な考え方

- ・史実に基づく復元を逸脱しない範囲で、バリアフリーに配慮する。

## ○バリアフリー対策の検討箇所と対応方針・対策案

### (1) 櫓台石垣上への動線

- ・車椅子の移動経路を確保  
→ (対策案) 階段 + スロープ

### (2) 櫓内の動線

- (案1) ・櫓1階までの移動経路を確保  
→ (対応案) 櫓出入口のスロープ
- (案2) ・2階への移動経路を確保  
→ (対応案) 階段 + エレベーター

### 対策案検討のポイント

- (1) 櫓台石垣上への動線
  - ・城址の歴史的な雰囲気や景観に与える影響
  - ・工事費、維持管理等のコスト
  - ・県警地下駐車場への影響 など
- (2) 櫓内の動線
  - ・往時の櫓内の質感に与える影響
  - ・工事費、維持管理等のコスト
  - ・建築構造(柱)への影響 など

### ◇バリアフリー関係法令

- ・坤櫓の床面積から、バリアフリー法の適用対象外
- ・福井県福祉のまちづくり条例は適用対象  
ただし、敷地の状況や建築物の構造等やむを得ない理由がある場合は、整備基準適合が免除

### ◇福祉のまちづくり条例における整備基準

- ・敷地内通路 高低差がある場合は、傾斜路や昇降機を設置
- ・エレベータ 床面積2000㎡以上の建築物には設置(坤櫓:600㎡程度)
- ・階段 つまづきにくい構造。高さ1.8m程度毎に踊り場設置

1

## (1) 櫓台石垣上への動線 比較検討

	スロープ + 階段	エレベータ・渡り通路 + 階段	階 段
写真 イメージ	 金沢城 河北門	 福井城 設置イメージ	一般的な階段
構造	延長75m 木造/鉄骨・木化粧	2階建てエレベータ棟 鉄骨	延長12m 木造/鉄骨・木化粧
バリアフリー 県条例への適合	○ 整備基準に適合	○ 整備基準に適合	△ 整備基準に適合しない (やむを得ない場合の免除規定あり)
利用しやすさ	○ 誰でも上がれる	○ 誰でも上がれる	× 車椅子利用者等は上がれない
福井城址の雰囲気や 景観に与える影響	△ 延長が長く、影響は大きい	△ 新たな建物。影響は大きい	○ 延長が短く、影響は小さい
県警地下駐車場に 対する影響	○ 少ない (連続基礎検討)	△ EV地下ピット(深さ1.2m)の確保が 必要	○ 少ない (連続基礎検討)
概算工事費	△ スロープ 約75百万円 階段 約25百万円 計 約100百万円	△ エレベータ棟 約60百万円 階段 約25百万円 計 約85百万円	○ 約25百万円
維持管理	○ 点検 必要に応じて補修	× 法定点検、保守、電気代 120万円/年 25年に1回、更新必要	○ 点検 必要に応じて補修
ライフサイクルコスト (50年間)	△ 約100百万円	△ 約205百万円	○ 約25百万円
評価	○ EVに比べ、メリットが大きい	△	△ 経済性や景観等のメリットは 大きい、バリアフリー基準不適合

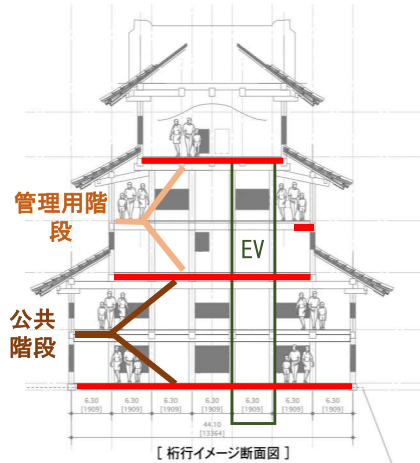
2

## (2) 櫓内の動く線(2階への移動経路)比較検討(案2の場合)

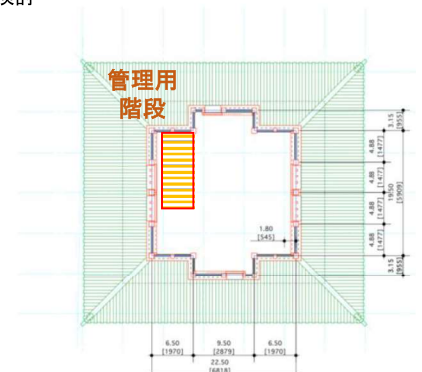
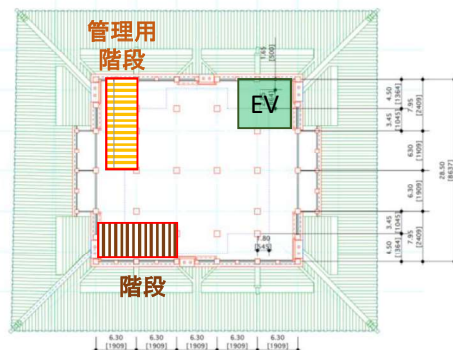
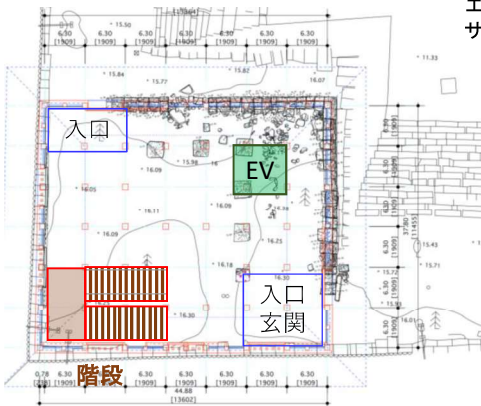
	エレベータ + 階段	階段	スロープ + 階段
写真イメージ	 金沢城 菱櫓	 金沢城 菱櫓	事例なし
構造	鉄骨 2階建てエレベータ	木造 延長10m、踊り場1箇所	木造 延長60m
バリアフリー 県条例への適合	○ 整備基準に適合 (必須ではない)	△ 整備基準に適合しない (やむを得ない場合の免除規定あり)	○ 整備基準に適合
利用しやすさ	○ 誰でも上られる	× 車椅子利用者等は上がれない	○ 誰でも上られる
内部構造の質感に 与える影響	△ 質感への影響は大きい	○ 質感への影響は小さい	× 室内の大部分がスロープになる
建築構造 への影響	△ 柱位置の変更が必要 EV地下ピット(深さ1.2m)の確保が必要	○ 柱位置の変更の可能性あり	△ 柱位置の変更が必要
概算追加工事費	△ 約25百万円追加	○ 建築工事に含む	△ 類推できる事例なし
維持管理費	× 法定点検、保守。毎年120万円 25年に1回、更新必要	○ 点検 必要に応じて補修	○ 点検 必要に応じて補修
今後50年間に 必要な追加費用	△ 約110百万円	○ 日常の管理費用に含まれる	○ 日常の管理費用に含まれる
評価	○ 室内の雰囲気や費用の課題は あるものの、バリアフリー基準適合	△ 経済性や景観等のメリットは 大きいですが、バリアフリー基準不適合	× 設置スペースが確保 できないため、不可

3

### (参考) 階段等が各階に占める区域 (イメージ)



エレベータを設置する場合は、柱割(柱の間隔約1.5m)を踏まえ、エレベータのサイズや柱の位置の変更の必要性など、実施設計の中で検討



【一層(1階)】

【二層(2階)】

【三層(3階)】